

多額の補助金は生かされるのか 本場に活性化されるのか など多様な意見

日本共産党議員団主催
中心市街地活性化問題市民懇談会

日本共産党市議団は一月二九日、市民プラザにおいて「中心市街地活性化問題を考える市民懇談会」を開き、市民の皆さんのご意見をお聞きしました。

会では、まず、行政が今進めようとしている計画を説明。その後、その計画についての意見や質問が相次ぎ、2時間以上の懇談会となりました。

懇談会の中では、「そもそも、活性化とは、だれを活性化することなのか、商店だけ活性化しても、暮らしにくい街になったのでは

困る。静かでも暮らしやすい街を望んでいる市民だっているのではないか」「街なか映画館の再生・存続運動をしている。なぜこの運動を始めたか」と、この劇場で落語を観る会を何回か行う中で、この劇場と、なによりもこの高田の町が好きになったからだ。そのことがきっかけになった」

「国、県から補助金が出る」といつても、上越市も7億円も税金を使う。こんな多額の税金を使っても本町商店街はもう活性化なんかしないから、反対」「北城町

に住んでいるが、本町商店街は必要ない。近所に店がほしい」「北陸新幹線開通後、直江津駅はどうなるのか、駅が縮小されれば、そこで働く多くの職員はどうなるのか」など、多様なご意見をお聞きすることができました。

私たち議員団は、中心市街地活性化のあるべき方策について、地元商店街、住民の方々のご意見をお聞きしながら、今後の議会での対応を考えていきたいと考えています。

☆ ★ ☆



浦川原会場で

議員はもっと勉強せよなど、きびしい意見続出 議員定数に関する意見を聞く会（第2回）

二月一日、議会主催の「議員定数に関する意見を聞く会」の2回目、板倉区、浦川原区、春日謙信交流館、雁木通りプラザで行われました。参加者からは、「議会と協議会は違う。議員の代用はできないので、そのことをもって定数を減らせ」ということはお

かしい。自治法に基づくものにすべきだ」「いまだに合併のメリットが見えてこないことを議員は受け止めてほしい。財政難のこともあり、思い切った定数減も必要だ。議会運営が成り立たない」「地域から議員が出ていないと不利になる」というのはどうかと思う。

全市一体になって活動してほしい」「議員もわが身の姿勢を正すべき、のうのうとしていてはダメ」など、率直な意見が多く出されました。合計八ヶ所で行われた今回の「意見を聞く会」には、合計で約二五〇人の参加がありました。

上越地域は、自動車部品製造、半導体関連会社が多く、派遣切り、雇止めが深刻な問題となっ

ています。一月二三日、日本共産党県委員会は、九期連続増収益を上げながら派遣労働者の解雇を行っているN社の問題などで、労働基準監督署および市に対して、次の点を要請しました。

に示しながら、非正規労働者の解雇を中止・撤回させるなど、事業者への指導を強めるよう申し入れました。

労働基準監督署では、「やむを得ない事由がある場合でなければ、解雇することとはできない」とした労働契約法第十七条の立場で行政指導を行うよう要請しました。上越市に対しては、実例を具体的

N社で働いていた一人のAさんは、三月中旬までの雇用契約でしたが、一月上旬に不当解雇されました。

こうした仕事を失った方の中には、暖房費を出せないうえ、家の中で毛布にくるまって、寒さを感じているという方もいます。

違法解雇中止、被解雇者に支援を！ 党県委員会が労働基準監督署等に要請



上越市に對し、市では既に70数社を訪問し実態の報告がありました。

これに對し、市では既に70数社を訪問し実態の報告がありました。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.168 2009年2月8日

連絡先	橋爪 法一	548-3628	(吉川区代石)
	樋口 良子	544-6802	(中門前3)
	上野 公悦	530-2203	(頸城区中柳町)
	平良木 哲也	525-9096	(上中田)